

稲作だより

～第2号 育苗・本田編～

4月、5月は例年、天候の変わりやすい時期です。こまめに温度管理を行い、健苗育成を目指しましょう。
本田作業は農作業安全を心がけ、ゆとりを持って計画的に行いましょう。

～育苗管理～

1. 浸種は、品種毎に必要な積算水温を確保

※浸種期間が長過ぎると、出芽が不揃いになる傾向があるので注意！

浸種期間の目安

品 種 名	積算水温	浸種日数	
		水温10℃	水温8℃
はえぬき、あきたこまち、雪若丸 コシヒカリ、ひとめぼれ、つや姫	120℃	12日	15日
ササニシキ、ヒメノモチ、こゆきもち	100℃	10日	13日

2. 催芽の状態をきちんと確認 <<出芽を均一にします>>

○30～32℃の適温で、芽（鞘葉）と根が1mm出たハト胸状態にします（右図）。

○十分に浸種した粳であれば、約20時間でハト胸状態となりますが、芽切れの状態を確認しながら行いましょう。



○ハト胸状態



×伸ばしすぎの状態

3. 苗種に合わせて適正な播種量

○播種量（乾粳換算）の目安は、中苗が80～120g/箱、稚苗が150～180g/箱です。※播種量が多すぎると、軟弱徒長苗の原因になるので注意しましょう！

4. 出芽～緑化期の温度管理 <<苗の生育に合わせた温度管理を徹底！>>

○施設内の温度上昇による高温障害（ヤケ）に注意しましょう。

○晴天日は、外気が肌寒くても閉め切ったハウス内はすぐに高温になります。施設内の温度（特に苗箱付近）を確認し、朝8時前までに換気しましょう。

◇温度管理の目安（出芽～1.5葉期）

稚 苗 育 苗（育苗器で出芽する場合）		中 苗 育 苗（無加温で出芽する場合）	
出芽期（2日間）	30～32℃	出芽揃いまで	20℃以上
緑 化 期 （3日間）	昼間 20～25℃ 夜間 10℃以上	出芽期～ 1.5葉期	昼間 30℃以下 夜間 10℃以上

- (無加温出芽の場合)出芽揃いまで保温資材を活用し、適正な温度を確保しましょう。
- 出芽後は、直射日光を避けながら徐々に緑化させます。
- ※被覆用の資材は、それぞれ遮光率、保湿性、保温性が異なります。要注意！
- プール育苗では、苗が1.5葉以上になったことを確認して箱の高さまで入水しましょう。これ以降は、生育に応じて水を張る高さを上げていきます。育苗後半は、苗が伸びやすいため、積極的に換気して温度を上げ過ぎないようにしましょう！

5. 育苗期間中の水管理 <適切なかん水で徒長を回避！>

- かん水は1日1回、朝にたっぷりに行いましょう。一見、乾いているように見えても、夕方に苗の葉先に水滴がついている場合は、かん水する必要はありません。
- 朝にかん水した後、万が一乾いてかん水する場合には、昼ごろに行い、低温時や夕方には行わないようにしましょう。床土の温度が下がるとともに根が酸素不足になるなど、根張り不良の原因となります。
- ※日中は、ホース内の水温がかなり高い場合があるため注意！手で水温を確認してから、かん水しましょう！

～本田の管理～

1. 土づくり肥料の施用

- 気象変動に負けない稲づくりのため、ケイカル・ようりん等土づくり肥料を積極的に施用しましょう。施用量の目安は、ケイカルは60～120kg/10a、ようりんは30kg/10a程度です。
- 耕深は15cmを目安に早めの耕起を行い、乾土効果を高めましょう。

2. 適正な基肥施用 <食味・品質重視！ムリせず適正な施肥量を！>

◇一般田での施肥量の目安(窒素成分 kg/10a)

品種名	基肥	品種名	基肥	品種名	基肥
あきたこまち	3～5	山形95号	4～5	コシヒカリ	2～3
ササニシキ	3～4	はえぬき	5～6	つや姫	3～4
ひとめぼれ	3～4	雪若丸	4～5		

※例年、葉色が濃い、屑米が多い圃場では、窒素を1～2割減らしましょう。

【対応技術】

- 中山間などで初期生育がとれない場合：①温水チューブの利用や温水田の設置等により水温の上昇に努める。②活着期に窒素成分で1～2kg/10a施用。
- 側条施肥の場合：①全層基肥に比べて20%程度減肥。②生育中期に肥切れを起こすことがあるため、全層施肥との組合せや緩効性肥料を用いて対応。

☆春の農作業事故防止啓発運動展開中(4月10日～6月10日)
あせらず、ゆとりを持って農作業をしましょう。周囲の方にも、声掛けを！

【発行】 村山総合支庁北村山農業技術普及課 TEL0237-47-8637, 8638, 8632